

# 平成19年度「介護予防に関する実態調査」及び「高齢者等実態調査」の調査結果について

## 1 調査の目的

高齢者が住み慣れた地域や家庭で安心して暮らせるよう、高齢者福祉施策を進めるため、北九州市に在住する高齢者等の保健福祉に関する意識やニーズ等を把握し、介護保険事業計画を包含する次期高齢者支援計画（計画期間：平成21～23年度）策定にあたっての基礎資料とする。

また、今回の2つの調査の中で、介護保険に関する意識やニーズ等に係る項目を設け、マニフェストに掲げる「介護保険の実態調査」として位置づけ実施した。

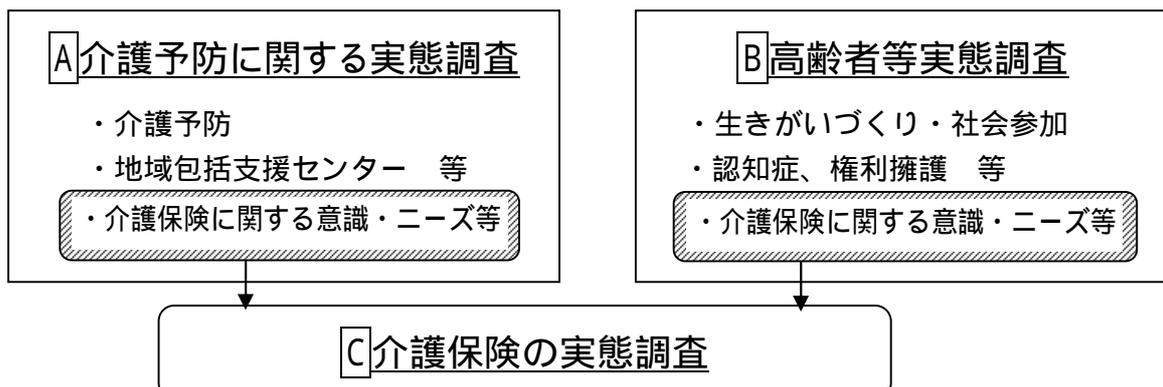
## 2 調査の対象及び回収率等

\*以下における「高齢者」とは65歳以上の者をいう。

A 介護予防に関する実態調査 *平成18年度に引続き実施				
目的	高齢者の介護予防や地域包括支援センターに関する意識、ニーズ等の把握。			
対象	対象者数	回収数	回収率	
	未申請、非該当、 要支援1、要支援2、要介護1	8,000人	4,310人	54.3%
方法	郵送による配布回収。			
期間	平成19年11月16日～12月14日（調査基準日：平成19年10月1日）			

B 高齢者等実態調査 *3年に1回実施				
目的	高齢者等の保健福祉に関する意識や新たなニーズの把握。			
対象	対象者数	回収数	回収率	
	一般高齢者	2,000人	1,452人	72.6%
	在宅（要支援・要介護）高齢者	2,500人	1,484人	59.4%
	施設入所高齢者	600人	365人	60.8%
	若年者（40～64歳）	2,000人	1,171人	58.6%
	計	7,100人	4,472人	63.0%
方法	一般高齢者、在宅（要支援・要介護）高齢者、若年者は、郵送による配布回収。 施設入所高齢者は市職員及び臨時職員による訪問面接。			
期間	平成19年11月1日～12月17日（調査基準日：平成19年10月1日）			

\*「施設入所高齢者」の回収数は、本人の意思確認ができないなどによる調査不能を除く有効回答数。

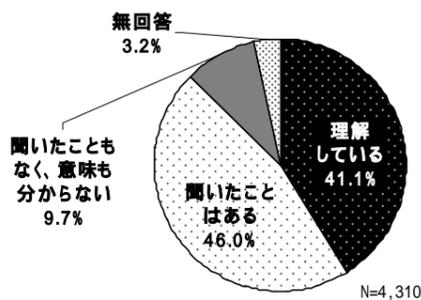


# 介護予防に関する実態調査(結果概要)

\*対象/未申請、非該当、要支援1、要支援2、要介護1の高齢者  
(すべての対象者に同じ設問)

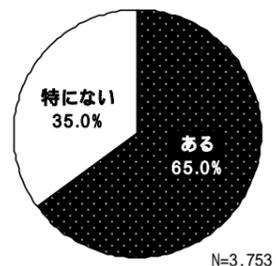
## (1)介護予防の理解度 「介護予防」という言葉は浸透

【予防P31】  
介護予防という言葉やその意味・意義の認知度については、「理解している」が41.1%、「聞いたことはある」は46.0%で、あわせて約9割となっており、「聞いたこともない」は9.7%となっている。



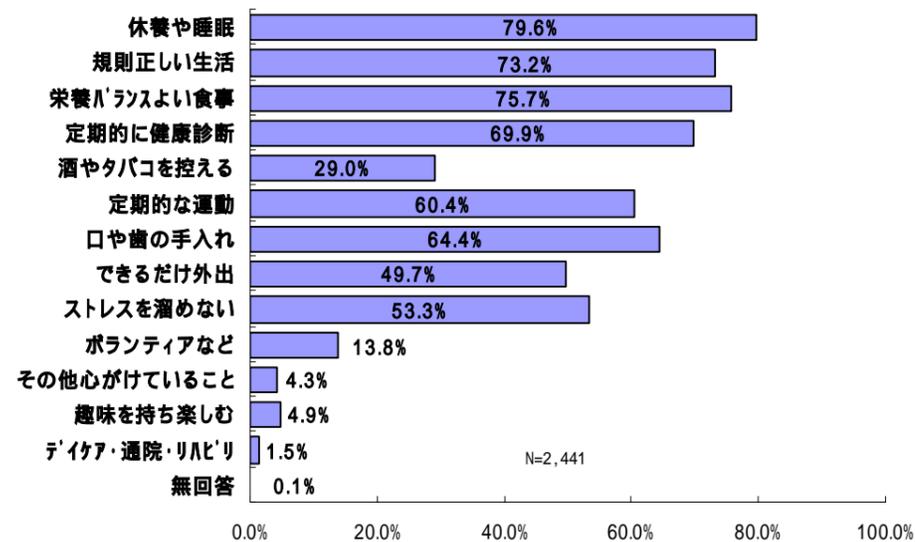
## (2)介護予防の取り組み状況 3人に2人は日頃から取り組んでいる

【予防P34】  
健康づくりや介護予防のために日頃から取り組んでいることがあるか尋ねたところ、「ある」が65.0%、「特にない」が35.0%となっている。



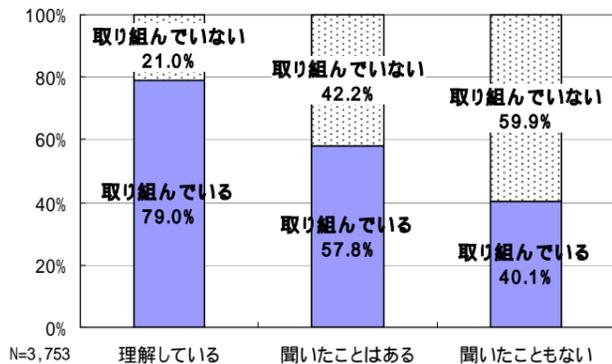
## (3)介護予防の取り組み内容 休養や睡眠を十分にとるが8割

【予防P35】(複数回答)  
健康づくり・介護予防に取り組んでいる人(2,441人)に、内容を尋ねたところ、「休養や睡眠を十分にとる」が79.6%で最も多く、次いで「栄養バランスのとれた食事をとる」が75.7%、「規則正しい生活」が73.2%となっている。



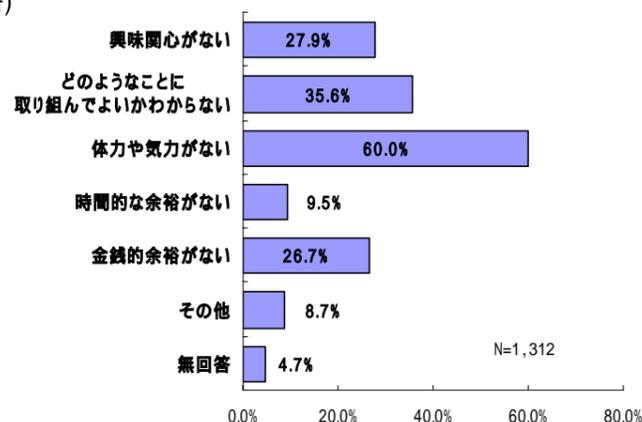
## (4)介護予防の理解度と取り組み状況 理解するほど高い取り組み状況

【予防P34】  
介護予防の意義等を「理解している」人の79.0%が、日頃から介護予防等に取り組んでおり、「聞いたことがある」57.8%、「聞いたこともない」40.1%の取り組みを大きく上回っている。



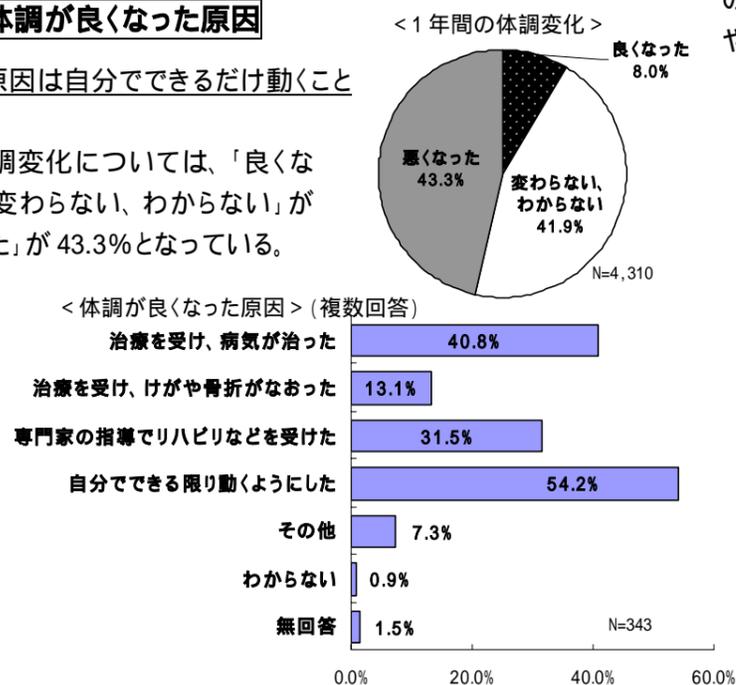
## (5)介護予防の取り組みをしない理由 体力や気力が無いが6割

【予防P37】(複数回答)  
介護予防などに取り組んでいない人(1,312人)に理由を尋ねたところ、「体力や気力が無い」が60.0%、次いで「どのようなことに取り組めばよいか分からない」が35.6%となっている。



## (6)体調の変化・体調が良くなった原因

体調が良くなった原因は自分ですできるだけ動くこと【予防P12・13】  
この1年間の体調変化については、「良くなった」が8.0%、「変わらない、わからない」が41.9%、「悪くなった」が43.3%となっている。  
「良くなった」と回答した人(343人)に、その原因を尋ねたところ、「自分ですできるだけ動くようにしたため」が54.2%で最も多くなっている。

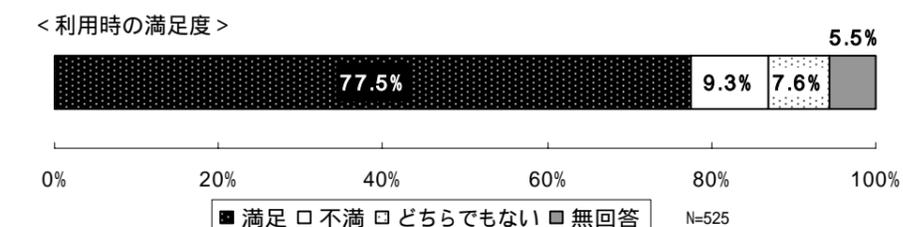
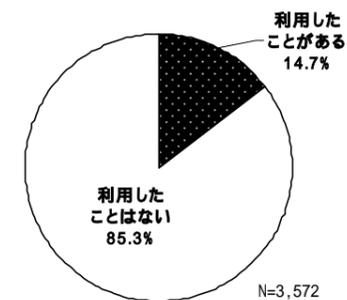


## (7)地域包括支援センターの周知 「知っている」は4割

【予防P61】  
地域包括支援センターの開設については、「知っている」が36.3%、「知らない」が63.7%となっている。

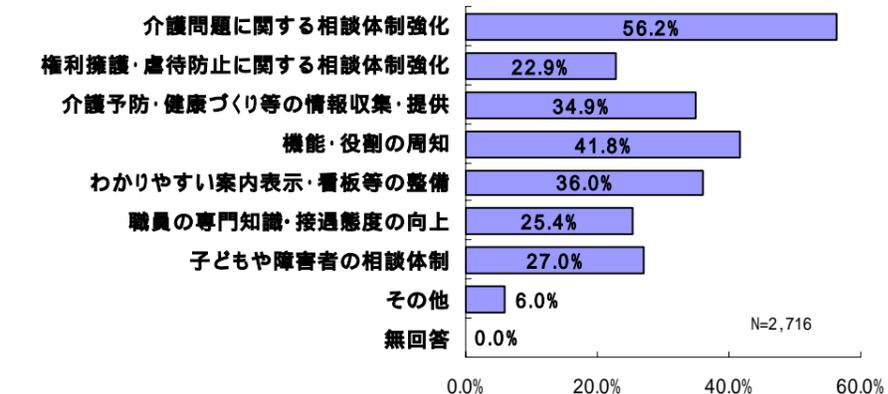
## (8)地域包括支援センターの利用経験・利用時の満足度

地域包括支援センター利用者に高い満足度【予防P64・P65】  
「利用したことがある」が14.7%、「利用したことはない」が85.3%となっている。  
そのうち、センターの利用経験者に職員の対応に対する満足度を尋ねたところ、「満足」が77.5%、「不満」が9.3%、「どちらでもない」が7.6%となっている。



## (9)地域包括支援センターが重点を置くべき施策 相談体制の強化

【予防P69】(複数回答)  
「介護問題に対する相談体制の強化」が56.2%、「地域包括支援センターの機能・役割の一層の周知」が41.8%、「設置場所がわかりやすい案内表示や看板等の整備」36.0%となっている。



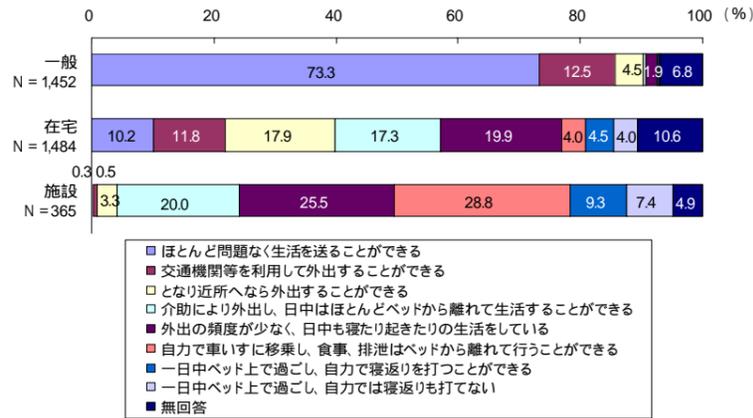
# B 高齢者等実態調査(結果概要)

\*「一般高齢者」は「一般」、「在宅(要支援・要介護)高齢者」は「在宅」、「施設入所高齢者」は「施設」、「若年者(40～64歳)」は「若年」と表記。

## (1)日常生活の状態 一般高齢者の7割以上は問題なく生活を送っている

【高齢P14】 \*対象 / 「一般」、「在宅」、「施設」

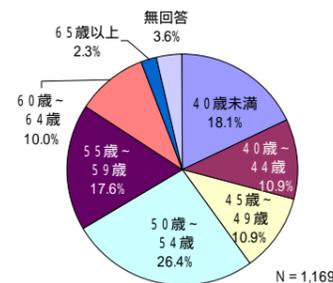
「一般」では73.3%が、「ほとんど問題なく生活をおくることができる」と回答。「在宅」では回答が分散しているが、介助による外出も含めると、外出できる状態にある人は57.2%と半数を超えている。



## (2)老後に向けた準備の開始年齢 「50～54歳」が最多

【高齢P19】 \*対象 / 「若年」

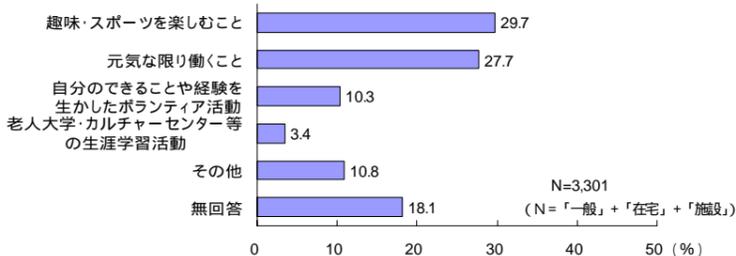
「若年」の老後に向けた準備の開始年齢をみると、「50～54歳」が26.4%と最も多く、全体としては50歳代を開始年齢とする人の割合が多い。



## (3)高齢者の望ましい社会参加活動 元気な限り働くが3割

【高齢P19】 \*対象 / 「一般」、「在宅」、「施設」

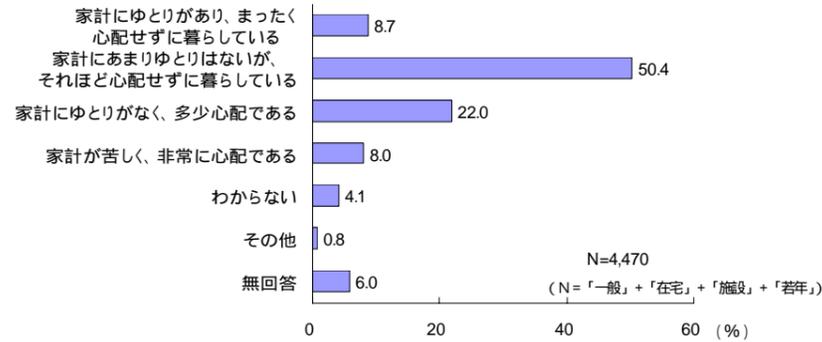
「元気な限り働くこと」や「趣味・スポーツを楽しむこと」を重視している人が多く、特に「一般」ではその傾向が顕著である。一方、ボランティア活動や生涯学習活動への関心は全体的に低い。



## (4)現在の暮らし向き 一般高齢者・在宅高齢者ともにほぼ満足

【高齢P69】 \*対象 / 「一般」、「在宅」、「施設」、「若年」

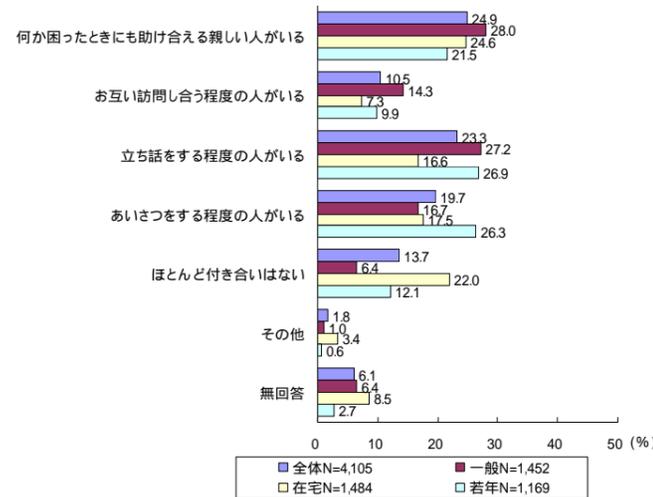
全体では「家計にあまりゆとりがないが、それほど心配せずに暮らしている」が50.4%と最も多く、次いで「家計にゆとりがなく、多少心配である」が22.0%、「家計にゆとりがあり、全く心配せずに暮らしている」が8.7%の順となっている。



## (5)近所付き合いの程度 4人に1人が困った時に助け合える親しい人がいる

【高齢P41】 \*対象 / 「一般」、「在宅」、「若年」

全体では「困ったときにも助け合える親しい人がいる」が24.9%と最も多く、次いで「立ち話をする程度」が23.3%、「あいさつ程度」が19.7%となっている。また、「困ったときにも助け合える親しい人がいる」と回答したのは、「一般」が最も多く28.0%、「在宅」が24.6%、「若年」が21.5%となっている。



## (6)認知症に対する不安 最大の不安は家族への迷惑

【高齢P45】 \*対象 / 「一般」、「在宅」、「若年」(複数回答)

どの対象も「家族に迷惑をかけそう」が最も多く、「一般」が46.3%、「在宅」が46.2%、「若年」が63.0%となっている。「一般」、「在宅」では、次いで「認知症になっても自宅で生活できるか」、「もの忘れと認知症の違いがわからない」の順となっている。一方、「若年」は、「介護する家族の負担を軽減するサービスが十分か」、「認知症になったときに入れる施設があるか」の順となっている。

## (7)虐待に至る要因として考えられること 大きい介護者の負担

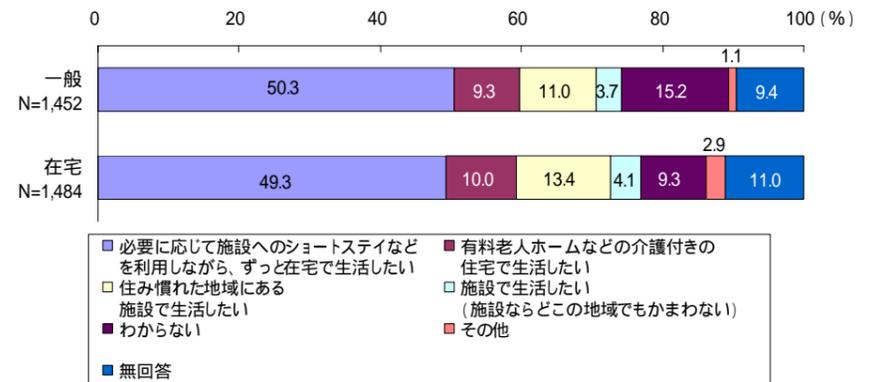
【高齢P50】 \*対象 / 「在宅」の介護者(複数回答)

介護者が虐待に至る要因として考えられることは、「介護者の介護疲れや精神的なストレス」が57.7%と最も多く、「高齢者本人に認知症による周辺症状がある」が33.3%、「介護者の家族や親族などの協力がなく、一人で抱え込んでしまっている」が30.9%となっている。

## (8)介護が必要になった時に希望する生活場所 根強い「在宅」ニーズ

【高齢P62】 \*対象 / 「一般」、「在宅」

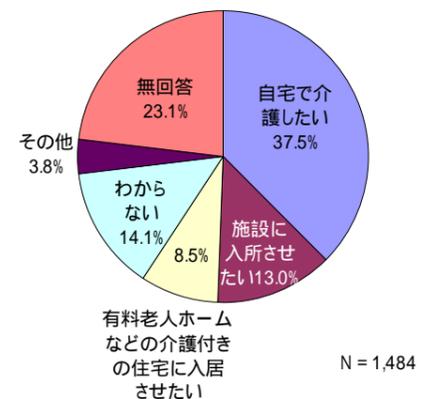
「ショートステイなどを利用しながら在宅で生活」と回答した人が、「一般」、「在宅」ともに約半数に達しており、在宅での生活を望む人が多い。



## (9)今後の希望する介護のあり方 本人同様に介護者も在宅を希望

【高齢P81】 \*対象 / 「在宅」の介護者

(8)と同様に、介護者が希望する「今後の介護のあり方」においても、「自宅で介護したい」が37.5%と最も多い。自宅以外での介護である、「施設に入所させたい」(13.0%)、「有料老人ホームなどに入居させたい」(8.5%)を合わせても21.5%であり、自宅での介護を望む介護者が多い。



## (10)高齢者福祉に対する重点施策 ニーズ高い在宅生活の支援

【高齢P72】 \*対象 / 「一般」、「在宅」、「施設」、「若年」(複数回答)

全体では、「在宅介護のための訪問サービス」を重視する人が37.3%と最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が34.9%、「配食サービスの充実」が34.1%となっており、上位3項目をみると、在宅での生活支援に関する施策を重視している人が多い。

# C 介護保険の実態調査(結果概要)

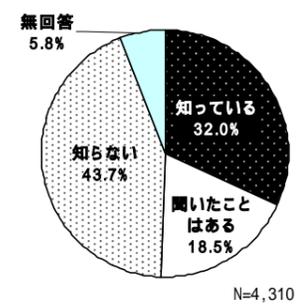
## A 介護予防に関する実態調査から

\*対象/未申請、非該当、要支援1、要支援2、要介護1の高齢者

### (1)介護保険制度の改正 知っているは3人に1人

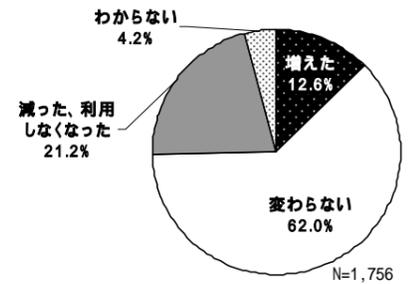
【予防P45】  
介護予防を重視した制度改正について、「知っている」は32.0%、「聞いたことはある」は18.5%、「知らない」は43.7%となっている。

このため、制度改正の趣旨や介護予防に関する正しい理解が十分には進んでいないと考えられる。



### (2)介護保険サービスの利用回数の変化 変わらないが6割以上

【予防P47】  
介護保険のサービスを利用している人(1,756)人に、この1年間の介護保険サービスの利用回数の変化を尋ねたところ、「変わらない」が62.0%と最も多く、「増えた」が12.6%、「減った、利用しなくなった」が21.2%となっている。



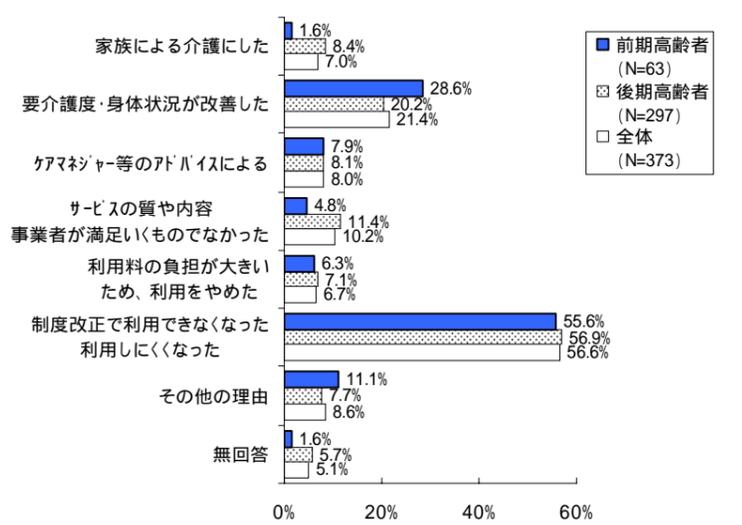
### (3)サービスの利用回数が減少した理由

制度改正の影響が半数、次いで身体状況が改善

【予防P49】(複数回答)

サービス利用が減った・利用しなくなった人(373人)に理由を尋ねたところ、「制度改正で利用できなくなった、利用しにくくなった」が56.6%、「要介護度・身体状況が改善した」が21.4%となっている。

特に、前期高齢者の人は、「要介護度・身体状況が改善した」の割合が後期高齢者に比べて高くなっている。

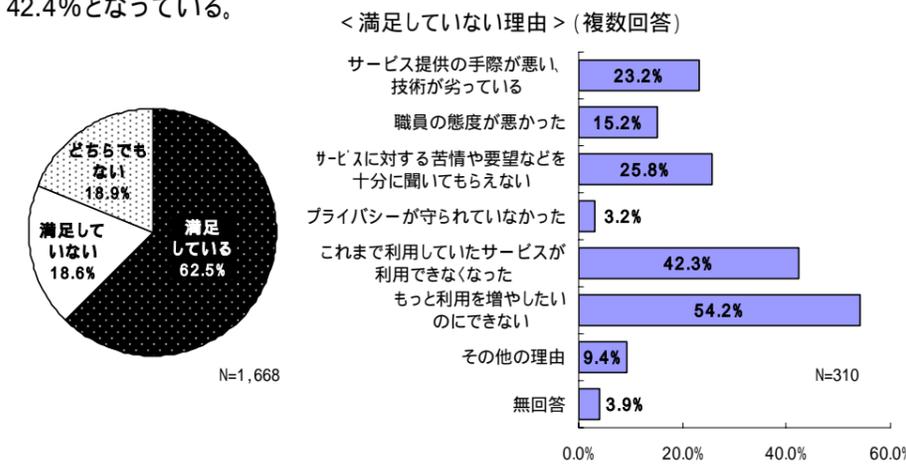


### (4)介護保険サービス利用の満足度 満足しているは6割以上

【予防P50・51】

「満足している」が62.5%、「満足していない」が18.6%、「どちらでもない」が18.9%となっており、「満足している」が大きく上回っている。

満足していない人(310人)の理由は、「もっと利用を増やしたいのにできない」が54.2%、「これまで利用していたサービスが利用できなくなった」が42.4%となっている。

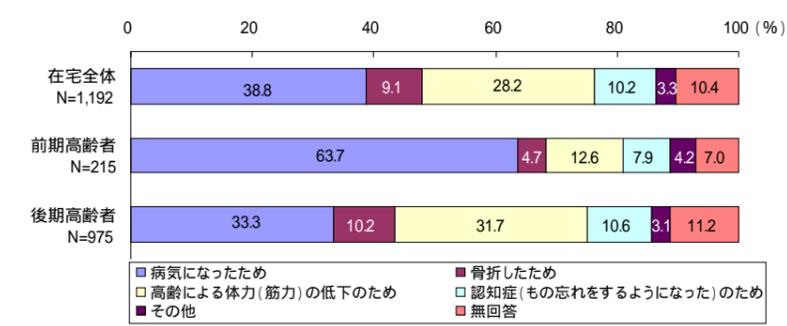


## B 高齢者等実態調査から

### (5)介護保険サービスを利用している理由 利用理由は病気が4割

【高齢P55】\*対象/「在宅」

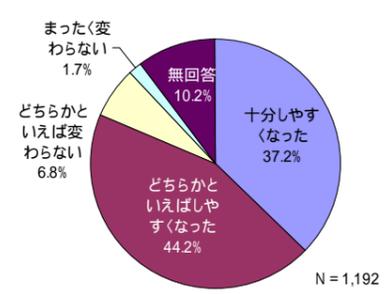
「病気になったため」が38.8%、「高齢による体力低下のため」が28.2%となっている。特に、後期高齢者は、「高齢による体力(筋力)低下のため」が前期高齢者に比べて高くなっている。



### (6)サービス利用による生活利便性の変化 利便性の向上は8割以上

【高齢P55】\*対象/「在宅」

介護保険サービスの利用で、生活がしやすくなったかについては「十分にしやすくなった」が37.2%、「どちらかといえばしやすくなった」が44.2%で、8割以上の人々がサービス利用により利便性が向上したと感じている。

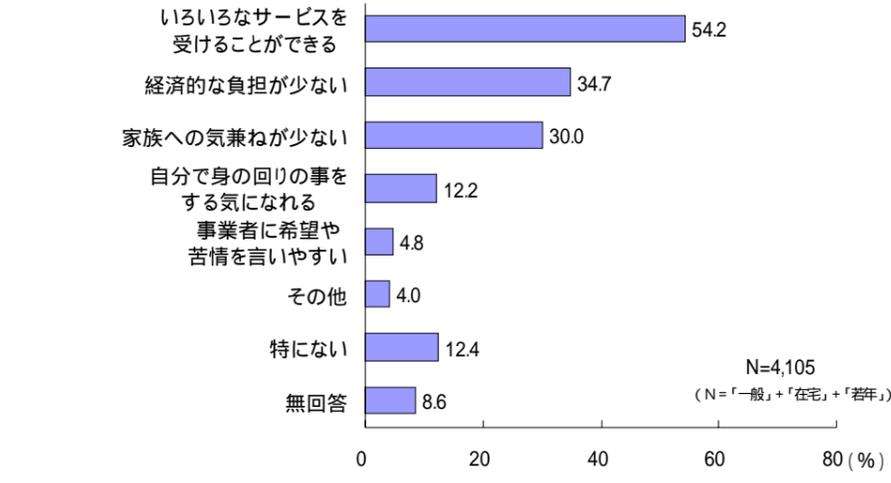


### (7)介護保険制度の良い点 いろいろなサービスを受けることができるが1位

【高齢P58】\*対象/「一般」、「在宅」、「若年」(複数回答)

どの対象においても、「いろいろなサービスを受けることができる」が最も多く、次いで「経済的な負担が少ない」、「家族への気兼ねが少ない」の順になっている。

特に、介護保険制度をよく利用する「在宅」では、「いろいろなサービスを受けることができる」が63.5%と突出して多い。



### (8)介護保険制度の悪い点

在宅高齢者で手続きの面倒さ、一般高齢者で経済的負担

【高齢P59】\*対象/「一般」、「在宅」、「若年」(複数回答)

「在宅」、「若年」では、「介護認定の申請など手続きが面倒」が26.3%、45.3%、「一般」では、「経済的な負担が大きい」が31.7%となっている。

### (9)介護保険制度の評価 在宅高齢者では8割以上が評価

【高齢P61】\*対象/「一般」、「在宅」、「施設」、「若年」

「よいと思う」、「おおむねよいと思う」と制度を評価している割合は、「在宅」では81.7%と最も多く、「一般」では68.4%、「若年」が67.8%と、おおむね7~8割の評価を得ている。特に、介護保険制度を利用している「在宅」での評価が、他に比べ高くなっている。

